

研究協力をお願い

昭和大学藤が丘リハビリテーション病院では、下記の臨床研究（学術研究）を行います。研究目的や研究方法は以下の通りです。この掲示などによるお知らせの後、臨床情報の研究使用を許可しない旨のご連絡がない場合においては、ご同意をいただいたものとして実施されます。皆様方におかれましては研究の趣旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

この研究への参加を希望されない場合、また、研究に関するご質問は問い合わせ先へ電話等にてご連絡ください。

大学ラグビー選手における頸椎アライメントと胸郭の関係

1. 研究の対象および研究対象期間

2019年4月1日から2024年3月31日に、昭和大学藤が丘リハビリテーション病院でメディカルメディカルチェックを行った大学ラグビー選手1年生。

2. 研究目的・方法

本研究はラグビー選手の頸椎アライメントと胸郭運動の関係性を明らかにすることを目的としました。ラグビー選手のケガに関しては、頸部や肩に多いと報告があり、頸椎と胸郭の運動を明らかにし、その協調性が障害予防や治療のために有用となる可能性があります。

ラグビー選手の頸椎前弯角度(C2-7角)は低値という特徴があります。また、C2-7角は胸椎後弯角と相関するT1 slopeと正の相関関係があることを報告されています。T1 slopeは、第一胸椎の前方への傾斜角度を示します。しかし、上位胸郭運動は第1胸椎と第1肋骨運動の影響を受けることが予測されますが、C2-7角と上位胸郭運動との関係性は明らかになっていません。また、C2-7 Sagittal Vertical Axis(C2-7 SVA: C2椎体中心から垂直に尾側におろした線までのC7椎体尾側後縁からの水平距離)を計測し、頭部の前方変位による上位胸郭運動との関係性の有無についても検討することとします。

今回は、C2-7角を中央値で2群(C2-7角高値群と低値群)に分けた際、T1 slope、C2-7 SVA、上位胸郭運動との間に、有意な差が生じると仮説を立てました。統計学的解析には、Studentのt検定、Welchの検定を用いて比較し、危険率は5%未満としました。

3. 研究期間

昭和大学における人を対象とする研究等に関する倫理委員会審査後、委員会から発行される「審査結果通知書の承認日」より、研究実施機関の長の研究実施許可を得てから2026年3月31日まで

4. 研究に用いる試料・情報の種類

メディカルチェックで計測したデータから、選手背景（性別、年齢、身長、体重、BMI、利き手、ポジション）、頸椎側面像とT-view撮影で得られた単純X線画像を調査対象とします。

5．外部への試料・情報の提供

該当いたしません

6．研究組織

研究責任者 昭和大学 保健医療学部 理学療法学科 野口 悠

7．お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせください。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出ください。また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象者としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

所属：昭和大学病院

氏名：野口 悠

住所：東京都品川区旗の台 1-5-8

電話番号：03-3784-8441